

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

桜川市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	桜川市の鳥に指定されているのはウグイスです。桜川市の木はサクラ、桜川市の花はヤマユリです。	2
2	桜川市は、高峯(たかみね)をはじめとして、山々に推定約55万本のヤマザクラ(山桜)が自生しています。桜川は明治中期からみかげ石などの石材業で栄えた地域であり、水はけのよい花崗(かこう)岩質の土壌が山桜が育つのに適しているため、色とりどりの山桜が群生する景観が生まれたとされています。	4
3	さくらがわ応援大使でもある山田優子(やまだ ゆうこ)さんは、茨城県を代表するライフル射撃選手で、全日本選手権で優勝(日本新)しています。また、バルセロナ世界選手権にも出場経験があり、2016年(平成28年)からは、茨城県スポーツ専門員としても活躍しています。	2
4	2019年(令和元年)、第74回国民体育大会 いきいき茨城ゆめ国体2019が茨城県で開催されましたが、桜川市の県営ライフル射撃場と岩瀬体育館ラスカがライフル射撃(CP以外)の会場となりました。	1
5	2018年(平成30年)4月に、真壁(まかべ)小学校、紫尾(しお)小学校、桃山中学校が一つになり、桃山学園が開校しました。それによって、桜川市には小学校が9校、中学校が4校、義務教育学校が1校、合わせて14校となりました。	3
6	桜川市バス「ヤマザクラGO」は、小学生や高校生の通学利用を中心に、多くの市民の皆さんが利用しています。また、休日には観光客がバスに乗って雨引観音(あまびきかんのん)や真壁(まかべ)の町並みを訪れており、平成30年度一年間で64,149人(約64,000人)の人が利用しました。	4
7	筑波線は1918年(大正7年)の開業以来、廃線となる1987年(昭和62年)3月31日まで岩瀬駅と土浦駅の間で運行されていました。廃線時、筑波線には全部で18の駅があり、そのうち桜川市内には8つの駅がありました。	2
8	海老沢泰久(えびさわ やすひさ)氏は1994年(平成6年)に短編集「帰郷」で第111回直木賞を受賞しました。真壁(まかべ)伝承館図書室の2階には海老沢氏が実際に使っていた机が展示されています。	3
9	桜川市は古代には新治(にいはい)郡の一部で、上野原には新治廃寺(にいはいはいじ)の瓦を焼く窯がありました。新治郡は広く、笠間地方を東郡、筑西(ちくせい)地方を西郡と呼び、一部は分かれて白壁(しらかべ)郡(真壁郡)になりました。	2
10	小山(おやま)寺は735年(天平7年)に聖武天皇の勅願(ちよくがん)により、行基を開基として創立されたと伝えられており、地元では富谷観音(とみやかんのん)の愛称で親しまれています。国の重要文化財に指定されている三重塔は、1465年(寛正6年)に建立されたもので、開運・安産・子育てに御利益があるとされています。	3
11	謡曲「桜川」は、岩瀬にある櫻川磯部稲村(いなむら)神社の磯部祐行(いそべ すけゆき)宮司が、関東管領の足利持氏(あしかがもちうじ)(諸説あり)に花見嘯(はなみばなし)「桜児物語」一巻を献じ、それをもとに当時の将軍足利義教(あしかがよしのり)が世阿弥(ぜあみ)に作らせたと言われています。	1
12	市の名前の由来ともなっている桜川は、山口地区にある鏡ヶ池(かがみがいけ)を源流とします。	4
13	桜川市地域おこし協力隊隊員がけん引する大泉(おおいずみ)さくらガーデンヒルズプロジェクトは、2018年(平成30年)12月に、総務省「地域おこし協力隊ビジネスアワード事業」に採択されています。その事業内容の一つに、大泉地区の桜を使った、桜のしおりや桜の塩漬け、桜のせっけん等の商品開発があります。	4
14	1985年(昭和60年)に開催されたつくば科学万博のタイパピリオン(タイ友好交流センター)が移築され、自由に見学できます。このタイ友好交流センターはタイ政府が友好記念として桜川市(旧大和村)に寄付したもので、異国情緒豊かな建物が印象的です。	2
15	雨引の里と彫刻展は、1996年(平成8年)から約2年に1回のペースで開催されている野外彫刻展です。今回の「雨引の里と彫刻2019」で11回目を迎え、県内外で活躍する30~70代の38人の作家が参加し、主に青木(あおき)、羽田(はねだ)、阿部田(あべた)、高森(たかもり)の4地区に、創造性あふれる彫刻作品が展示されました。	3
16	青木堰(あおきせき)は増水のたびに流されていたため、1831年(天保2年)に名主館野勘右衛門(たての かんえもん)が、農政家として有名だった二宮金次郎と二宮尊徳(にのみや さんとく)に村の救済を頼み、1833年(天保4年)に青木村復興事業のひとつとして青木堰を再建しました。	1
17	雨引山楽法寺(あまびきさんらくほうじ)は、通称雨引観音と呼ばれ、安産子育て祈願やアジサイのお寺として県内外から多くの参拝客が訪れる有名な寺院です。戦で焼失したお堂を鬼たちが17日間で再建した物語が伝えられています。4月に行われるマダラ鬼神祭(きじんさい)はそれにちなんだお祭りです。	4
18	市民団体「ゆめ紫峰の会」は、安産・子育ての寺として知られる雨引観音にちなみ、箱のデザインにもこだわりました。また、ユメシホウにちなみ、「夢子宝(ゆめしほう)」と名付けられました。	2
19	桜川市の真壁(まかべ)・酒寄(さかより)地区はミカン栽培の北限と言われています。筑波山系の中腹には、山麓より気温が3~4度高くなる斜面温暖帯とよばれる地帯があり、ミカンの栽培が可能となっています。	3
20	こだますいかは通常のスイカより早い3月から出荷が始まり、5月上旬に収穫最盛期を迎えることから、二十四節気の立夏(5月5日ごろ)を「こだますいかの日」として制定し、市の代表作物であるこだますいかを多くの人に知ってもらうためにPRしています。	1
21	武家の家紋は、勇猛な動物を採用することも多いですが、殿様から与えられたり、合戦で勝利したなど縁起の良し悪しで変更されることもありました。真壁(まかべ)氏は江戸時代からはタチバナ(橘)の家紋を使っていました。なお、イノシシ(猪)は真壁氏の旗のマークで、家紋ではありません。	2
22	五所駒瀧(ごしょこまがたき)神社は鹿島神宮から分霊を請け、約1,000年前に創建されたとされる歴史ある神社です。真壁(まかべ)祇園祭は昔からの形式や伝統が固く守られており、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。	4
23	筑波山の麓にある「つくし湖」は、1992年(平成4年)に完成した霞ヶ浦用水の人造湖です。風のない穏やかな日には湖面に美しい逆さ筑波が映ります。	1
24	2018年(平成30年)5月に、桜川市はフィリピン共和国のパコール市と友好交流都市協定を締結しました。友好都市協定はブルガリア共和国シリストラ市に続き2都市目となります。パコール市とは岩瀬小学校とバヤナン小学校でのICTを活用した英会話交流がきっかけで、今後は英会話交流に加え様々な分野で交流を深めていきます。	3
25	桜川市の加波(かば)山や筑波山では良質な花崗(かこう)岩が産出され、昔から真壁(まかべ)石、羽黒(はぐろ)石などのみかげ石の産地として知られてきました。	4